平町紺屋町（縣社通り）
実味評判 イヲ手食堂
オの部電話四六〇番

東京行進曲
目下……
帝都流行の
ジャズソング
波浮の港の歌手
佐藤千夜子嬢が
心地良き
管絃團伴奏で
ビクターレコードに

蓄音器・貴金属
會田時計店
平町四（電三六三）

合名會社 藤本商店
電話四〇番

喫茶部開設
体温器
寒暖計
確かな
関内藥局
電四〇番

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病
林病 十二指腸虫病
専門
松村 胃腸病 性病
平南町 電話一七〇
科 醫院

頭痛に即効藥
荒川のノーシン
特約店 大平屋藥店
電話六四二番

内科 小兒科 院長 醫學博士 難波睦
内科部長 醫學博士 中西林藏
外科 皮膚泌尿科專門
外科部長 醫學士 氏家憲介
（毎日曜手術）醫學士 桂重次
産婦人科 女子泌尿科
産婦人科部長 醫學博士 松枝茂
耳鼻咽喉科專門
部長 醫學士 井上俊次郎
毎日曜手術 醫學士 渡部貞助
本院醫事 法學士 岡蕃
法制顧託 法學士 賀澤忠治
本院主事 電話七二番

×光線新設 物理學的診療法
主任醫學博士 難波睦
技師 工藤慶造
主任 中西林藏
技師 小熊英夫
藥局長 吉本孝平
（共濟病院內）
（共濟病院內）
（共濟病院內）
衛生試驗所
衛生試驗所 技師
藥局
一、衛生試驗所
一、病氣相談所
一、救療所
◎救療を申込る方は常磐相談所へ御話しください
◎入院自炊ノ便アリ
◎看護婦見習募集
共濟會
平町（電話六四一番）

セメント
壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板ガラス
磐城セメント株式會社
代理店 西村屋藥舗
平町二丁目（電三）

外科 花柳病 專門
木村外科醫院
入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

耳鼻咽喉科專門
場所（舊診療所裏通り）
合津醫院
平町仲田町（電話五五九）

常將の英氣當る可からず更に巨砲を連ねて萬軍に見ゆ
三十日替り プログラム
日活現代派超特作名畫 原作及後援朝日新聞社
脚色……木村千疋男
敏腕記者 朝日は輝く 全
主演……中野英治 入江たか子
特別出演 河部五郎、梅村蓉子、葛木香一、酒井米子其他
日活 新人小川隆 主演 原作 有本有義 監督 佛生寺彌作
錯覺戲曲 斫辰膝栗毛 全
近來小氣味よき名作……笑ひの中に皮肉な哲學が存在する……映畫
説明 東影 彩影
説明 若月柯村
常勝將軍阪東妻三郎が最初のザンギリ物
中村吉松、復歸更生的大飛躍決死共演
監督……犬塚稔畢生の總指揮
明治綺聞 開化異相 前後十二卷
原名『餓鬼』改題
悲壯凄慘、流血、砲煙中に見る人生の大悲喜譚
太秦總動員 説明 石井孝
土日曜 學生デー 日活松竹 平舘 電四六六

常磐毎日新聞
八月二十九日夕刊
発行兼編輯人 川崎文治
本社ト同番地（電話六三〇番）
印刷所 常磐毎日印刷所
廣告 五號十二字詰一行一日 二十錢
休刊日 毎月一ヶ月分 二十錢
定價 一部 稅共 一錢
年分 五十錢
大嘗祭 祝日ノ翌日
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社
電話六三〇番

寄書

思想問題と所謂道

小柳司氣太

（一）

今日、思想善導の一方法として國學や漢學の研究が大いに奬勵されてゐる、このことは甚だよいことではあるが、その研究の方法が所謂考證的で、たゞその訓詁疎註を主とするとか、昔の古い書物に拘泥するとかいふ一方だけであつて、所謂國學や漢學の精神なり感化なりを知つて、これを行ふといふことが誠に少い、それの一つは今の考證的な研究は、その結果が比較的に得易いによると思ふ、つまり考證的研究ならば古いものをひねくつて居れば何等かの結果を得ることが容易であるが、これに反して精神的のものはその結果を擧げることが得にくいのである、さういふところから學問の風潮が只所謂考證的になり骨董的になるといふのであらうと思ふ。

國學には國學の大精神があり、それには日本國民の思想がその根抵をなしてゐるのである、漢學にはまれ漢學の大精神があり、支那の聖人の道を傳へるといふところに、その根本があるのである、ところが今日では道などいふことはてんから受けつけられないのみならず、第一に道などの考へは今の社會には全く無いと云つてもよいのである、すべてが批評的破壞的のみになつて居つて、求道の精神などいふ考へは、今日の青年社會には頑迷固陋として白眼視されてゐる形であるつまり自己崇拜に陷つてゐて、古人のえらいことを尊ぶといふやうな雅量がなくなつてゐる。

日本一の民謡の唄手 三島一聲氏一行來る

屢々宮殿下の御前で演奏

來月四五の兩日午後六時 本社後援の下に聚樂館で

民謡の唄手として日本一の、評ある三島一聲氏を迎えて來月四五の兩夜平町聚樂館に『純民謡と新民謡の夕』を本社後援の許に開催される、同氏はラヂオの放送やビクター蓄音機

吹込みで　其名を知られて居るが今回本社長と知己である關係上悦んで平町のステージに立つ事となり、早くもセンセーションを起し期待されて居る

演奏曲目は第一部、第二部を通じて十九曲目で佐渡おけさ、節根八里、秋田おばこ、木曾節の各地俚謡から、上州小唄、出船の港、波浮の港、鉾をおさめて等

ポピラーな新民謡等で其の美聲で唄はれるほか特にプログラムには天下一品と折紙がつけられて居る信州小諸情緒『馬子唄』が唄はれることになつて居るから

新秋風清　き當夜は聽衆をして眞に恍惚たらしめずに置かぬであらう、今更ら紹介する迄もなく三島氏は、日本俚謡の系統的研究に心魂を打ち込み、全國を行脚して居る篤志家で今では押しも押されもせぬ斯界の大家として學者間に推稱措かざる人で

各宮殿下　に於せられては同氏の藝術をいたく愛好せられ屢々御前演奏の光榮に浴して居る、同氏の美音は男聲としては殆んど絶無といつてよい程の高い美しいもので、藤原義江以上だといはれて居る、秋の夕、北の名手の民謡を聽くのは平町のファンにとつてまたとない好機會であるが

一行中に　は同氏の外にソプラノの聲樂家として東都太田ぬい子嬢ありまた伴奏には、第一ヴァイオリン中川良氏、第二ヴァイオリン井澤源次氏ヴィオラ請川豐氏、セロ坪川一郎氏、ピアノ山田明氏等の新進が顔を揃へ且つ天才ヴァイニストとして郷黨人に推奨され志を立てゝ上京斯藝を練磨した中

近く切手が色を變へる

（東京特信）　遞信省では郵便切手の内で似寄りの色があつて從業員が度々間違ひを起し易い四錢、八錢、廿錢、三十錢及び五十錢の五種の切手の色を變更することゝなり來たる九月一日より從前の分が賣れ切れ次第發賣する事になつた改正される該五種の切手の色合は四錢橙朱色、八錢鶯茶色、廿錢濃菫色、三十錢薄橙色及び濃綠色、五十錢赫青色及び濃黃色である

藤田青年團長の國務放テキの噂は

何かの誤解から……

多田井、青沼兩氏が言明

平町民体育大會を前に控へた廿四日藤田平青年團長が大谷前信用組合長の舊惡暴露に奔走し團務を全然顧みなかつたと傳へた向があつたが左樣な事實は少しもなかつたと

前提し　多田井副團長は語る『藤田團長はその四の午前中中堅青年講話會や絲主催の体育講習會に列席しまして團長の責めを果し一方体育大會の準備は殆んど完了し且つ夫々係員があつて手落ちなく事を運ぶ手順が付いて居た爲め私とも相談の上午後の信用組合

理事會　に臨んだのです、そして其の爲めに体育大會の準備が遅れたといふが如き事實は毛頭ありませんから此の點誤解の無い樣に願ひます』また青沼信用組合長は大谷君の舊惡暴露に藤田君が策動したと噂されたのは

同君の　爲めに氣の毒です、廿四日の理事會は他の重要案件を協議するため開かれたのでありまして大谷君に關する協議等では全々なかつた事を言明します』と語つて居た

放送支局をゼヒ郡山へ

平町側も助力

一般のラヂオファンのために鑛石により聽取を完全にさせラヂオの一般化の前提として仙台放送局では福島市に支局を設置し仙台から有線中繼放送をなす計劃をたて大體支局設置に決定したものゝ如く傳へられてゐるが有線中繼放送は極めて短距離のものであつて福島市に支局が出來ても石城郡地方では仙台から放送されるのを聽取するのと何等異る處でないと云ふので平町ラヂオ商組合では平町地方の聽取者と圖り中繼放送支局を郡山市に設置するやう運動を起す事になつたが郡山市に支局が出來れば平町地方でも鑛石をもつて聽取する事が出來るのでファンは非常な便利を得る事になる由である

松崎稻荷祭禮

平町仲間町鎭座鬼門松崎稻荷神社の祭は廿九日執行される筈で餘興に水戸御免大神樂足黑一行煙花等ある由

町の生んだ器樂家高木益美氏が目下歸省中を幸ひ賛助出演する事になつて居る因に會員券は五十錢と四十錢の二種に分れ市内樂器店書店並に本社に於て頒布する

稅務署長新任

新任の平稅務署長司稅官石川八十吉、稅務屬小野美則の兩氏は本日各官衙其他を新任の挨拶の爲め歷訪した

明日の天氣豫報

西よりの風晴れたり曇つたり所により驟雨

家庭欄

▲鼻血の止め方　鼻血がとめどなく出る場合には首のまはりの着物をゆるめて首のうしろを冷すのも一法ですがまた首をぐつと後にあを向けさせて椅子に腰をかけさせ兩腕を眞直ぐに上にあげて鼻の上を冷してもよい、冷たい水か明ぼん少量をとかした水を鼻から吸ひ込んでも鼻血が止まります

共濟委員制度に就て（五）

福島縣共濟委員　門傳清吾

（イ）尚市では縣の協力を得て社會事業基金を造成する爲め市内を主として各富豪及有志を勸說し餘に二十八萬圓を募集し尚漸次增大しつゝあるが故に五十萬圓位を造成したる上、社會救濟の實績を擧げたいと意氣込んで居ります、而して其寄付額は最低は制限なく最高は一人で一萬圓二萬圓といふ巨額のものもあるとのことであります。私は此方法は本縣に於てもゆくとも石城方面委員に於て實現し社會救濟の目的を貫徹したいと切望するものであります、以上は秋田縣廳社會課主事及秋田市役所社會課主事の說明を基本とせるものであります

次に感恩講及聖心醫院の二事業に付實見せる狀況を申述べたいと思ひます。

（イ）感恩講（秋田市本町六丁目卅三番地に設置す）感恩講の由來は秋田藩用達人鄕波三郎右衛門なる人が世上の艱難中貧困より甚だしきものなきことを悟り慨然として貧窮救恤の方法を設けんことを企圖し文政十年十二月大晦日町奉行橋本五郎左衛氏に伺候し同奉行より藩主佐竹義厚侯に育兒保嬰の思召あることを傳聞し尚出資の意ありや否やを下向せられたるに對し三郎右衛門は宿願成就の期至れりと爲し即金百五十兩外に十ケ年賦に二百五十兩を出金せんことを誓ふ、而して文政十一年三月藩廳に先に誓約せる四百兩を出資し一は救民救恤に一は育兒保嬰の資に備へんことを出願し許可せられた然れども退いて熟考するに大事を達成するに一人力能く及ぶ所にあらず須らく多數の有志を求めて其贊助を得るに如かずと爲し其年秋より東西に奔走して同志を勸誘し仝十二年二月に至り漸く有志七十二人の義捐金千兩と銀十貫目の醵出を得町奉行に出願し平年は貧民を賑恤し兇年は飢餓を救助し以て藩廳恤救の萬分の一を釋補せんとした而して藩主義厚侯に稟申の結果嘉納の上奇特の旨褒賞せられたるに市内民心大に振ひ更に廿人の義捐金千兩を得合計二千兩と銀十貫目に達し特に命名せられて感恩講と稱するに至り救恤の實を擧げ漸次篤志家の寄付ありて財産增大するに及び明治三十八年十月兒童保育院を設立し保育の美果を收めつゝ今日に至り其間文部内務の各省其他知名の士より奬勵金又は褒賞を得たるのみならず畏くも各宮殿下より奬勵金の御下賜あり無上の光榮に浴し經營者及其承續者は特に贈位の恩命に浴したとのことであります同講の資産は大正十年十月三日の登記總額を以てすれば十八萬三千四十六圓二十六錢六厘であるが内譯の計算は田一反歩八十圓位宅地一坪一圓二三十錢畑六十圓位に見積り極めて低廉なるが故に時價に換算せば平萬圓以上になるであらう